

第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）
6月上旬までに上記ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと合わせてご活用ください。

～日本経済が直面する世界不況の行く末を様々な切り口から探ります。

- 2009/5/27 「経常収支不均衡是正が世界経済に及ぼす影響～世界経常収支は適性値から 67%乖離～」
- 2009/5/26 「民間調査機関の経済見通し～輸出持ち直しや追加経済対策などから、4－6月期以降、プラス成長がコンセンサスに～」
- 2009/5/26 「不況下で増加が期待される消費とは～キーワードは「自炊」「巣籠もり」「高齢者世帯」～」

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～激動する世界の金融市場動向を毎週お知らせします。

- 2009/6/15 「Market Watching Weekly Market Report」（毎週月曜日配信）

掲載カテゴリ：畷峰義清の「マーケットウォッチング」

～不況下での雇用環境を、相場下落局面での個人投資家の行動を分析しています。

- 2009/5/29 「不況に巻き込まれない雇用～専門的・技術的職種に対するニーズの増加～」
- 2009/5/27 「株価暴落局面でのインターネット取引～30・40歳代のネット投資家は取引減が小幅～」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～欧米先進国の経済危機の行方と成長力に期待がかかるアジア各国での景気反転を探ります。

- 2009/6/12 「海外 経済指標・イベント予定 “Weekly Global Economy”」
- 2009/5/25 「アジア短期経済見通し～足元で景気底入れ感が高まるが、力強さに乏しい～」
- 2009/5/20 「2009年、2010年の中国経済見通し～厳冬は去り、春遠からじ～」

掲載カテゴリ：桂畑誠治の「米国経済を探る」、「アジア・新興諸国経済」

編集後記

GDPや鉱工業生産指数など公表される経済統計と日常生活の感覚は、かけ離れているという声をたまに耳にする。当研究所の永濱主席エコノミストから聞いた、家計調査報告（総務省）についての話はこの例外かも知れない。家計調査のデータを注意深く見ると、景気の悪い時ほど消費が増える品目がいくつもあるという。これらの（品目名）を並べてみると、不景気に直面した家庭の食卓の様子が鮮やかに浮かび上がる。

ちなみに、夕食は自宅（プロパンガス）。夫婦はワイン（ぶどう酒）で乾杯。（合びき肉）のハンバーグには（ケチャップ）。付け合せは（もやし、たまねぎ）の野菜炒め。和食派は（生しいたけ、れんこん、かぼちゃ）の煮物。それにやはりご飯（米類）。デザートには手軽な（みかん）。

このほか、急な雨でもタクシーに乗らないで（傘）。年末年始恒例の海外旅行は中止し、自宅でちょっと豪華な正月料理（鯛＝12月の消費が多い）なども統計数値から見出せるという。

やりくりの工夫はまだほほえましいが、所得が減り続ければそれにも限度がある。たまには違う献立も食べたい。外出に便利な足を使いたいし、たまには遠出もしたい。ささやかな出費はできる世の中でありたい。

(H. U)